

宮崎工場 DX化の取り組みが紹介されました

株式会社トーア紡コーポレーション

IT系ニュースサイト ASCII.jpにて、IoTプラットフォームを手掛けるソラコムが2021年6月22～24日に開催した年次カンファレンス「SORACOM Discovery 2021」の様子が紹介されています。

その中で、東亜紡織(株)宮崎工場における電力デマンド管理や温湿度管理による製糸の品質管理など、IoTを用いたスマートファクトリー化の取り組みが取り上げられました。

ガラスメーカーのAGCはタンクの在庫管理をIoT化したSmart Inventory Systemを構築。タンク残量が自動的にシステムに登録されるため、サプライヤーへの発注まで自動化されているという。また、東亜紡織は宮崎県にある紡績工場のデジタル化でSORACOMを活用しており、電力の需要管理、温湿度管理による製糸の品質管理、生産現場の改善などを実現している。こちらは認定パートナーのKYOSOがレガシーセンサーのプロトコル（Modbus RTU）をデジタル化するゲートウェイを開発したことで実現した。

製造

導入事例

新発表!!

東亜紡織株式会社

工場の電力デマンドや温湿度、生産状況など、MORAT GWを用いレトロフィットでクイックにスマートファクトリー化を実現

利用したSORACOMサービス：
SORACOM Air, Beam, Krypton, Napier

利用したデバイス：OpenBlocks IoT VX2 等

協力パートナー：株式会社KYOSO

東亜紡織は紡績工場のDX化でSORACOMを活用

詳細は下記よりご覧いただけます。

SORACOM on ASCII

[『ソラコムが最新事例を披露 新サービス「SORACOM Arc」の破壊力』](#)